

審査論文要旨（日本文）

論文提出者氏名： 小野 泰之

審査論文

題 名： The influence of parental care and overprotection, neuroticism and adult stressful life events on depressive symptoms in the general adult population
(一般成人におけるうつ症状に対する両親の養育態度、neuroticism、成人期ライフイベントの影響)

著 者： Yasuyuki Ono, Yoshikazu Takaesu, Yukiei Nakai, Masahiko Ichiki, Jiro Masuya, Ichiro Kusumi, Takeshi Inoue

掲載誌： Journal of Affective Disorders 217:66-72 (2017)

(審査論文要旨：日本語論文の場合 1,000 字以内・英語論文の場合 500 words)

【目的】

うつ症状と幼少期の両親の養育態度、neuroticism、成人期ライフイベントとの関連は既に報告されてきた。しかし、うつ症状に対する幼少期の両親の養育態度、neuroticism、成人期ライフイベントの要因同士の共分散構造分析による相互作用について検討した研究は今までにない。本研究では一般成人で「両親の養育態度（養護・過保護）」が「neuroticism」を介して作用し「うつ症状」に影響を与えるという仮説を立てて、共分散構造分析により検証した。

【方法】

一般成人で書面説明後に同意した成人 401 名を対象として自記式質問紙で調査を実施した。1. PHQ-9：うつ症状評価尺度、2. PBI：両親の養育態度、3. EPQ-R 短縮版より neuroticism 12 項目：neuroticism、4. LES：最近 1 年間のライフイベントのネガティブな影響の強度、の 4 つの質問紙を使用した。構造方程式モデルを作成し共分散構造分析最尤法（SPSS Amos 22）により解析を行った。

【結果】

一般成人 401 名の共分散構造分析により、neuroticism やライフイベントのネガティブな影響は直接的にうつ症状に作用しているが両親の養育態度は直接的に作用していないことが明らかになった。しかし、両親の養護は neuroticism を介してうつ症状を軽減させる方向で作用しており、両親の過保護は neuroticism を介してうつ症状を悪化させる方向で作用していた。また、両親の養育態度（養護、過保護）はライフイベントのネガティブな影響を介してうつ症状に作用していなかった。この構造方程式モデルにおけるうつ症状についての重相関係数の平方は、養護で 0.342、過保護で 0.339 であった。

【結論】

本研究の結果は両親の養育態度（養護、過保護）が neuroticism を介して間接的にうつ症状に影響を与えていることを明らかにした。

(注：本文約 800 字)